

念ずれば花ひらく

詩人
坂村真民の
世界



坂村真民
(さかむら・しんみん)

1909年(明治42年)、熊本県玉名郡府本村(現・荒尾市)生まれ。本名、昂(たかし)。8歳の時、父親が急逝し、どん底の生活の中、母を支える。神宮皇學館(現・皇學館大学)卒業後、熊本で教員となる。その後、朝鮮に渡って師範学校の教師に。終戦後、朝鮮から引き揚げて愛媛県に移住。高校の教員として国語を教え、65歳で退職。58歳の時、砥部町に定住し、92歳で砥部町名誉町民に選ばれる。2006年(平成18年)97歳で砥部町にて永眠。

20歳から短歌に精進するが、41歳で詩に転じ、個人詩誌『詩国』を発行し続けた。仏教伝道文化賞、愛媛県功労賞、熊本県近代文化功労者賞受賞。

一遍上人を敬愛し、午前零時に起床して夜明けに重信川のほとりで地球に祈りを捧げる生活。そこから生まれた人生の真理、宇宙の真理を紡ぐ言葉は、弱者に寄り添い、癒しと勇気を与えるもので、老若男女幅広いファン層を持つ。

本展会期中は、児島虎次郎作品、エジプトコレクション、成羽の植物化石も併せてご覧いただけます。



アクセス

- JR岡山駅から伯備線(特急やくも)約35分、(普通)約50分、備中高梁駅下車。バスセンターから成羽方面への備北バス約20分、「成羽」停留所下車、「たいこまるプラザ」隣
- 山陽自動車道 倉敷ICまたは笠岡ICから約50分 ● 岡山自動車道 賀陽ICから約30分、岡山総社IC、有漢ICから約40分 ● 中国自動車道 北房ICまたは新見ICから約50分
- 岡山空港から車で約60分



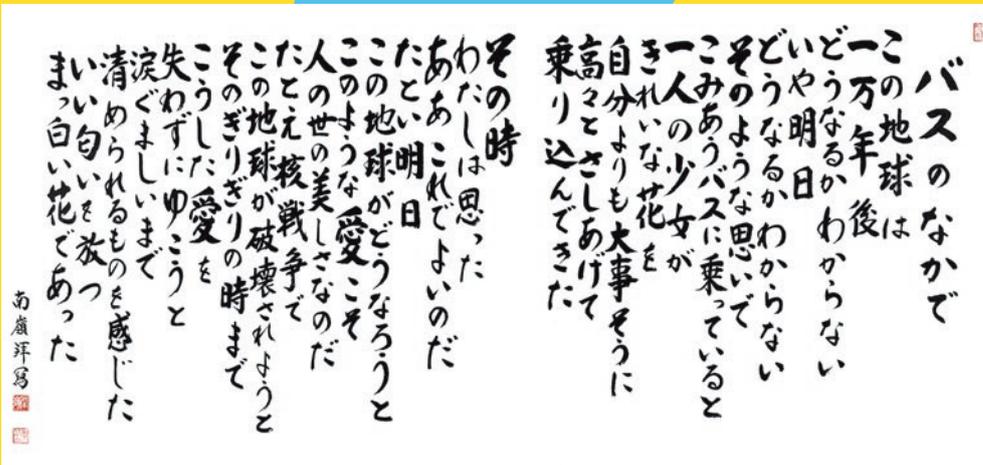
高梁市成羽美術館 NARIWA MUSEUM

〒716-0111 岡山県高梁市成羽町下原1068-3

TEL 0866-42-4455 FAX 0866-42-4451

<https://nariwa-museum.or.jp/>

FOLLOW US!



真民詩《バスのなかで》横田南嶺・書



真民詩《二度とない人生だから》坂村真民・書

21世紀になり世界が更なる躍進の時代を迎えようとした矢先、誰が今のようなコロナ禍を予想したでしょうか。人と人との接触を控えて距離を置き、マスク越しに会話する。温かい心の交流が忘れ去られ、人々が孤独の淵に追いやられるのではないかと案じられます。

坂村真民は幼くして父を失い、母親一人の手で清貧の中で5人兄弟の長男として育てられました。その母への恩愛は深く、数々の詩に詠われています。また遠く郷里を離れて四国で教職に就き、煩悶を抱えながらも家族への愛情を培いながら詩の世界に没頭してゆきます。真民はその生涯で沢山の詩を発表し、97歳で世を去るまでいかに生きるべきかを厳しく自らに問いただしながら感動の詩を紡ぎ出し「祈りの詩人」として多くの人に親しまれてきました。



坂村真民愛用品

この度の展覧会ではその真民の詩を中心に、愛用品やノートに記された思索のあとなどをご覧いただきながら、坂村真民の人となり生き方をたどりたいと思います。また真民詩に深く傾倒する鎌倉 円覚寺の横田南嶺管長が筆を揮った真民詩も特別展示します。坂村真民の詩に触れ、喜びと新たな生きがいを見出しただければ幸いです。

EVENTS 関連イベント

7月17日◎ 13時30分～15時

記念講演会「念ずれば花ひらく世界」

講師 | 横田南嶺老師(臨濟宗円覚寺派管長・花園大学総長)

会場 | たいこまるプラザ「伊藤記念ホール」(美術館隣) 参加費 | 無料 定員 | 200名(先着順)

要予約(当館HPより)

8月7日◎ 13時30分～15時

記念講演会「坂村真民の生き方とそこから生まれた詩について」

講師 | 西澤孝一氏(坂村真民記念館館長)

会場 | 多目的展示室 参加費 | 無料(ただし美術館入館券の購入が必要)

成羽美術館館長によるギャラリートーク

開催日は当館HP、SNS等にて事前告知いたします。

イベント詳細や申込方法等
詳しくは当館HPをご覧ください

